

令和六年度 一般入学試験問題

国語

◎ 指示があるまで開かないこと





問題一 次の文章を読んで、設問に答えよ。

私たちはすでに多くの作業を機械に任せています。連絡を取るときにメール、SNSを使っていますか。仕事の記録を取ったり、書類をつくる時にはパソコンを、調べものをするときにはインターネットを使うのではないのでしょうか。これらを使わずに仕事をしてくださいといわれたら、どうしますか。

二〇年前にはこれらの技術は日常的に利用されていませんでした。

A

現在、いきなりこれらの技術がなく

(a)

なったとしても、仕事ができないわけではありません。しかし効率やスピードは変わります。職場や生活に入り込んでくる技術は、私たちの日々の仕事タスクの一部を代替し、基本的には便利にしてくれているはずですが（余計な仕事を増やすこともあります）。私たちの生活や仕事の一部は、すでに機械に「奪われて」います。「記憶する」といった認知的な機能でさえ機械任せになっています。

人間と機械が仕事を奪い合うのではなく、協働が重要であるともいわれます。膨大なデータ処理や計算に強い機械と、直感や創造性の備わっている人間が協働することで、より効率的に仕事ができるかもしれません。農業や

①

ンブや安全

②

てんけん

など危険性が高いものは、むしろ積極的に機械に仕事を「奪ってほしい」かもしれません。

少子高齢化時代に突入している日本は慢性的な人手不足に陥っています。そんなとき、「仕事を奪われる」と懸念する人よりは、機械に仕事を肩代わりしてもらいたいと思っている人も多いでしょう。

②

懸念

する人よりは、機械に仕事を肩代わりしてもらいたいと思っている人も多いでしょう。

すでに「奪われている」あるいは「奪ってほしい」タスクがある一方で、技術的には機械による代替が可能であっても、機械か人間どちらに対応してほしいか意見が分かれるタスクもあります。意見が分かれるものの多くは、人と人が接する仕事です。これらは人間の尊厳、責任や民主主義などの

B

な価値と密接に結びついています。

(2)

また、機械に仕事を任せるかもゼロイチではありません。時と場合によって柔軟にタスク配分を自分で選択できるしくみづくりが求められます。ネット通販があるからといって③ てんとう 販売がなくなるわけではありません。インターネット上でさまざまな金銭的取引ができるようになって、銀行の窓口業務がただちになくなるわけでは

(中略)

さまざまな社会的課題の解決にあたっては、人間ではなく機械や環境を賢くするのが早いし合理的だとする考え方があります。その一例が自動運転です。完全自動運転では、人間が運転技術を覚える必要はありません。また、ヒューマンエラーによる事故よりも機械による事故のほうが少ないと考えられています。

しかし、車や環境を賢くするためには、かなりのコストがかかります。自動運転車にはいくつか種類があります。車に「目」であるセンサーを搭載することで、自律的に道路や人を認識して初めて通る道でも判断ができるタイプが一つです。

C

このセンサーは高性能なものほど高額になります。また、精度の高い地図情報も必要です。

一方、信号や④ 標識

など街中にセンサーを埋め込むことで、より精度を高める⑤ 試みがあります。中国では、

このようにして自動運転用の都市を丸ごとつくってしまう計画があります。環境を改造すると、さらにコストがかかります。

D

昔ながらの街並みを維持したいという要望とは相いれません。

これらは、人ではなく車や環境を賢くしていくことによって、安全で安心な都市をつくらうとする試みですが、車や環境を賢くするのはあくまで「I」であって「II」ではありません。「事故率を下げる」や「安全・安心な街をつくる」「今住んでいる街にもっと愛着をもつ」といった、そもそもの目的に立ち返った場合、技術以外の解決策があることに気づきます。

車や環境ではなく「人間」に焦点を当てることで、低コストで安全な環境をつくり出した事例があります。現在、欧米などで導入されている「シェアード・スペース」という歩車共存の考えにのっとった都市交通モデルです。シェア

(b)

アード・スペースでは道路標識や信号、遊歩道、側道などをすべて廃止しました。そうしたところ、右からの通行者が常に優先されるという状況が生まれ、さらに人々は車や歩行者により注意を向けるようになりました。その結果、事故数が減少したそうです。これを専門家は、人々により多くの自由を与えることで、その道路を共有している人たち全員が責任をもって行動する義務が発生したからだ⑥ **ぶんせき** しています。自動車、自転車、歩行者が共存する場をつくることによって、常に周囲を意識させる状況をつくり出し、安全性を確保しようとする考え方です。

現在の自動運転車は、高速道路など「歩車分離」が可能な特定の場所に限って使われます。一方で、古くからある小道はすでに「歩車共存」です。パリ市内では小道などが、標識や信号がない「Zone de rencontre」として指定されています。ここは自転車、自動車、歩行者が共存する場所です。景観や街を維持するため、技術以外の解が必要とされることもあります。

さらに現在、海外の都市部では、車を都心から締め出す動きがあります。パリ市やニューヨーク市などでは、環境問題や⑦ **そうおん** の軽減、人々の健康、地元をもっと知ってもらうなどの点から、市内の車の侵入や走行を禁止する「ノーカーデー」を取り入れています。都市に何を求めるかといった人々の価値観は変化します。それに伴って都市をどのように設計するかも変わるのです。

もちろん、高速道路と下町では移動の目的や設計は異なります。しかし、自動運転車をつくるという目的にとらわれていては、見えなくなるものがあります。

(江間有沙『AI社会の歩き方』)

設問一  内①～⑦の平仮名(ひらがな)は漢字に、漢字は平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二  A、 C、 D には、どんな接続詞(つなぎことば)が入るか。次の中から最も適当と

思われる語をそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア なぜならば イ しかし ウ また エ た例えば オ いわゆる

設問三  B には、どんな語句が入るか。次の中から最も適当と思われる語句を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 利己的 イ 消極的 ウ 抽象的 エ 一時的 オ 社会的

設問四 右に傍線部のある語句(1)「**プ**」と同じ漢字を用いるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 還**プ**金 イ 音**プ** ウ 一**プ**多妻 エ 湿**プ** オ 妊**プ**

設問五 右に傍線部のある語句(2)「柔軟」と熟語の構成が同じものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 離**陸** イ 絵**画** ウ 上**下** エ 熱**湯** オ 年**長**

設問六 右に傍線部のある語句(a)について、これらの技術がなくなると仕事の「効率やスピード」が変わるの  
はなぜか。その理由を、本文中の語句を用いて四十字以内で説明しなさい。

設問七

I

II

には、それぞれどんな語句が入るか。次の中から最も適当と思われるものの組み合わせを一つ選び、記号で答えなさい。

- |   |   |    |    |    |
|---|---|----|----|----|
| ア | I | 手段 | II | 目的 |
| イ | I | 実践 | II | 理論 |
| ウ | I | 模倣 | II | 創造 |
| エ | I | 結果 | II | 原因 |
| オ | I | 理想 | II | 現実 |

設問八

右に傍線部のある語句（b）「歩車共存の考え」とは、具体的にどのようなことか。それについて説明し、  
た次の文の空欄①～③に当てはまる語句を、本文中からそれぞれ二字で書き抜きなさい。

道路標識や信号、遊歩道などがなく、通行の（①）がある代わりに、その道路を通る全員が、車や歩行者により注意を向けるなど、常に周囲を意識して（②）に通行するための（③）を負うという考え方。

設問九

右に傍線部のある語句（c）「自動運転車をつくるという目的にとらわれていては、見えなくなるもの」とは、どのようなものか。本文中から八字以内で書き抜きなさい。



問題二 次の文章を読んで、設問に答えよ。

財布をなくしたことに気づいたのは、家に帰ってからだった。電車に乗るときは定期券を使ったので、財布を取り出さなかったのだ。内藤の家を出た後で、腹立ちを紛らわすためにコーヒースタンドに入ったから、あの時点までは確かに持っていた。落としたとしたら、コーヒースタンドで金を払ったときとしか思えなかった。

慌てて店に電話をして、財布を拾っていないか訊いてみたが、そんな落とし物は届いていないとのことだった。諦めきれずにもう一度戻り、その途中でも目を光らせたものの、①道端に財布は落ちていない。仮に道で落としたのだとしても、A 誰かが拾っているだろう。警察に届いているかもしれないが、それより先にやるべきこととがいくつもあった。財布には銀行のキャッシュカードや、クレジットカードが入っていたのだ。

真つ先にそれらを止めなければならなかったのに、気づかなかったのはやはり動転していたせいだ。コーヒースタンドを出たところで携帯電話を②そうさし、各会社の連絡先を調べて電話する。カード機能の停止自体はスムーズに進んだが、残念ながら銀行口座からはごっそり金が引き抜かれていた。額にして、三百万円だった。

キャッシュカードを持ち歩いている口座にそんな高額を入れておくこと自体が確かに迂闊ではあるものの、おれはI のだ。儲けようとしなければ、損もしない。だから勢い、給料の振り込み口座には少しづつ金が貯まり始め、三百万円にも達していたのである。それが消えたのは、目が眩むようなショックだった。

クレジットカードも、さっそくキャッシングで限度額まで使われていた。こちらの方は財布を落としたことを証明できればなんとかなるだろうが、面倒に巻き込まれたことには変わらない。おれはB 打ちひしがれて、③最寄りの警察署へと足を向けた。

三百万円を何者かに盗み取られたことに激怒したのは、おれの女房である淑子だった。淑子は最初ぼかんとした表情をしたかと思うと、見る見る顔を青ざめさせた。

「ねえ、嘘でしょ。だって一日に引き出せる限度額って、今はずいぶん低くなってるんじゃないか？」

「いや、個別設定できるんだよ。おれは限度額を三百万円にしてたんだ」

「どうしてよ！ なんてそんな馬鹿なことしたの？」

「だって、限度額がC 低いと不便なんだよ。三百万くらいあれば、まあいいかなと……」

「何がまあいいかよ。じゃあ、暗証番号はどうなってたの？ まさか誕生日のままだったとか」

おれは返事できなかった。昔設定したきりで、面倒で暗証番号を変えていなかったのだ。黙り込んだおれを見て、淑子は今度は顔を真っ赤にさせて怒り狂った。

淑子はD、ケチな④性分である。近所のスーパーのチラシを見るのが一番の趣味で、牛乳が五円安いと言っては朝から駆けつけ、卵はひとり一パックと書いてあれば四歳の娘にも持たせてレジに並ばせ、バターが値上がりすると聞けばいくつも買い溜めするという、絵に描いたような庶民感覚の持ち主だ。別におれも上流階級を気取るつもりはないが、それなりの額の給料を取っているのだから、たかが数円にE する姿はいささか苦々しく思っていた。収入に応じた暮らしをしてくれないかと何度も頼んではみたものの、長年かけて培ってきた性分は

そう簡単に変えられないらしい。そんな淑子にとって、三百万円という金額は一億にも二億にも感じられるのかもしれない。仮におれが浮気をしてここまでは怒らないんじゃないかと思えるほど、半狂乱になってこちらの迂闊さを非難し続けた。おれは言い返す言葉を持たなかったのだ、ただ亀のように首を竦めて嵐が過ぎ去るのを待った。

以来、家の中の空気はぎすぎすし始めた。何より、食事の質がぐんと落ちた。疲れた体を引きずって家に帰ってみると、待っていたのは納豆と梅干し、味噌汁だけなどということがあるのだ。これはおれに対する当てつけかと思つて文句を言ったところ、自分も亜里砂も同じものを食べていると言いつ返す。三百万円を取り返すにはこういう食事を最低三年は続けなければならぬのだと、血走った目で⑤はんろんされれば、全面的に非があるおれと



してはただげんなりするだけだった。外食しようにも、小遣いを減らされてしまった今はろくなものが食べなかつた。

もともと<sup>(2)</sup>儉約好きの淑子ではあったが、今やそれは命懸けの使命のようにも見えた。風呂の残り湯で洗濯するのは当然として、そもそも風呂の水を交換するのは一週間に一回になってしまったし、トイレのタンクには水を詰めたペットボトルを沈めてあるし、シャンプーは水で薄めて使うし、昼間は⑥<sup>(c)</sup>しょうめいを点けるのは禁止と決めてしまうし、テレビも使えないようにリモコンをどこかに隠してしまった。人に話せば笑い話にしかならないケチぶりだが、一緒に暮らす身にはかなり辛かった。

娘の亜里砂もかわいそうだった。「亜里砂、お肉が食べたい」と悲痛な訴えをしても、「パパがお金をなくしたからうちには貧乏なのよ」とすげなく言い返されるだけである。育ち⑦<sup>(d)</sup>ざかりに納豆や豆腐でタンパク質を摂らなければならぬのは、かなり切ないだろう。

(貫井徳郎『帳尻』)

設問一

内①～⑦の平仮名(ひらがな)は漢字に、漢字は平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二

A  D には、どんなことが入るか。次の中から最も適当と思われるものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア すっかり    イ あんまり    ウ うっすら    エ とつくに    オ もともと

設問三

E には、どんな四字熟語が入るか。次の中から最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 取捨選択    イ 一喜一憂    ウ 七転八倒    エ 付和雷同    オ 試行錯誤

設問四

右に傍線部のある語句(1)「苦々しく思う」、(2)「儉約」と同じ意味を表す語句をそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 舌を巻く  
イ 爪に火をともし  
ウ ごぼう抜きにする  
エ 油を売る  
オ 眉をひそめる

設問五

I には、どんな語句が入るか。次の中から最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 宵越しの金は持たぬ主義で、いちど懐から出た金はもうおれのものじゃない  
イ 利益を得るためなら他人のことなど一切考えない  
ウ 金融商品だの投資だのといったものをいっさい信用していない  
エ 金を銀行に預けてさえいれば安全だと妄信していた  
オ まさか自分の口座に三百万円も入っているとは思わなかった

設問六 右に傍線部のある語句(a)「最初ぼかんとした表情をしたかと思うと、見る見る顔を青ざめさせた」について、このときの淑子の気持ちはどのようなものであったか。次の中から最も適切と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 夫の話に動転し、すっかり取り乱してしまっただが、何とかして落ち着こうとしている。
- イ 夫の話に腹を立てたものの、もしかしてだまされているのではないかと疑っている。
- ウ 夫の話がすぐには信じられなかったが、だんだん本当ではないかと思いはじめている。
- エ 夫の言うことがよく分からなかったので、もう一度話を聞き直したいと考え始めている。
- オ 夫の話が信じられないので、冷静に問いただして真偽を確かめようと思っている。

設問七 右に傍線部のある語句(b)「そんな淑子」を言い表した語句を、本文中から十六字で書き抜きなさい。

設問八 右に傍線部のある語句(c)「一緒に暮らす身にはかなり辛かった」について、何がそれほど「辛かった」のか。次の中から最も適切と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 元はと言えば自分が金を盗まれたためとはいえ、淑子の過剰な儉約のせいで、生活が息苦しいものになったこと。
- イ 心を入れ替えて毎日一生懸命働いているにもかかわらず、相変わらず淑子から責められ続けていること。
- ウ 自分の失態から三百万円もの借金を抱えてしまい、淑子や亜里砂に苦しい生活を強いることになったこと。
- エ もう一度三百万円を貯めるために、小遣いを減らすなど、自ら率先して儉約に努めなくてはならなかったこと。
- オ 失った金を取り返そうと、警察や銀行などに事情を説明したにもかかわらず、犯人の目星さえつかないこと。

設問九 右に傍線部のある語句(d)「悲痛な訴えをしても……すげなく言い返されるだけである」について、どのような淑子の態度を表す次の慣用句の空欄に当てはまる語は何か。次の中から最も適切と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

取り付く( )がない

- ア 羽
- イ 暇
- ウ 庭
- エ 島
- オ 金



